
地域連携推進会議議事録

日時：令和8年1月23日(金) 15:00～16:30

会場：豊岡ホーム1号館

参加者：利用者代表/I氏 家族代表/M氏 地域代表/ファミリーマート店長U氏
大樹事務局長/斉藤氏 GH彩/安保氏・石川氏・立元

議題

1. 開会のあいさつ
2. 出席者紹介
3. 事業所の概要
(鶴見区の状況・グループホーム彩の概要・利用者アンケート・事故・苦情報告)
4. 意見交換
5. 閉会のあいさつ

1. 開会のあいさつ・参加者紹介

2. 鶴見区の障害者の状況説明

- 鶴見区は横浜市内で人口3番目に多い
- 障害者手帳所持者数:身体障害7,400人(市内1位)、知的障害(市内2位)、精神障害(市内4位)
- 区内に45のグループホーム、定員299名

3. グループホームの概要説明

- 4-6人程度の小規模な住まい
- 18歳から入居可能、現在26歳～78歳の方が利用
- 日中は仕事や活動に出かけ、夕方以降職員が支援
- 区内45ホームあるなかで10館運営。重度知的障がい、強度行動障がいの利用者も受け入れている。
- 夜間支援、金銭・手続き等の生活支援、地域とのつながり作りが主な役割

4. 利用者の生活状況紹介

- I氏:部屋の掃除や趣味の活動、教会への参加など自立した生活

- ・ M氏の家族:電動車椅子サッカーチームに所属、作業所に通所

5. 事故・苦情

- ・ 重大事故として夜間帯に利用者が所在不明になることがあった。ファミリーマートから警察に通報がいったことで安全確保をされた。
- ・ 朝の7時30分頃から通所時に大きな声を出す利用者がおり、通学中の小学生が怖がっているという苦情がある。ホームの職員が毎朝通所同行することで対応。現在はヘルパーが同行している。この件から民生委員や「花と緑の会」との繋がりが深まった。
- ・ 昨年度は吸い殻を排水溝に捨てたり、ピンポンダッシュ、他人の敷地に入る等の苦情があったため仲通商和会の会合や夜間パトロールに参加することで地域との繋がりを作っている。

6. 地域との関わりについての意見交換

- ・ U店長:万引き等の問題行動があっても背景を探り、適切な支援につなげる重要性を指摘
- ・ グループホーム側:地域とのつながりを作ることで、問題発生時に相談しやすい関係性構築の重要性を認識

7. 災害時の対応について

- ・ グループホーム:在宅避難を基本とし、備蓄等を準備
- ・ ファミリーマート:基本的に営業を継続する方針

8. 今後の連携について

- ・ ファミリーマートの掲示スペースを活用した情報発信の検討
- ・ コミュニケーションボード等のツールの活用可能性
- ・ 相互理解を深めるための継続的な対話の重要性を確認

その他特記事項

- ・ 地域との関わりを通じて、相互理解を深めていくことの重要性が再確認された
- ・ 問題発生時には背景を探り、適切な支援につなげていく姿勢が大切であることが共有された
- ・ 今後も継続的に対話の機会を設け、地域との連携を強化していくことが確認された